

ヤコブ ①

## □ヤコブの信仰の手本

1. 祖父アブラハム、父イサクと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。  
ヤコブは、ノアやヨブと同じように、「全き人」と評された。
  - 人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。
2. 長子の権利を軽蔑した兄エサウとは対照的に、ヤコブは、アブラハム契約の約束を受け継ぐという霊的富の価値を認め、それを真剣に求めた。
3. 父イサクが兄エサウの方を愛し、エサウに長子としての祝福を与えようとしたとき、母リベカは夫イサクをだましてでも、弟ヤコブに祝福を受けさせようとした。ヤコブは母の計画に乗って実行してしまった。イサクはこの事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、あらためて、ヤコブを祝福し、嫁をリベカの実家から迎えるよう命じて、ヤコブを送り出した。ヤコブはこのあと、生涯をかけて、父をだました罪の刈り取りをすることになり（箴言 22：8、ガラ 6：7）、わざわざに耐え続けた。
  - (1) 母リベカの実家の当主ラバンから、だまされた。
    - ① ラバンの2人の娘のうち、妹のラケルを嫁に求め、そのために7年間、ラバンのもとで働いた。ラバンはヤコブをだまして姉のレアを与え、妹のラケルをも妻にしたいなら、さらに7年間の勤労を要求した。
    - ② 14年の勤労期間が明けると、報酬を伴う契約に移行した。しかし、ラバンはヤコブの取り分がなくなるように条件を変えた。この期間は6年。
  - (2) ヤコブは、12人の息子を得たが、息子たちから、だまされた。
    - ① 次男シメオンと三男レビによるシェケム報復事件（創世記 34 章）
    - ② 長子ルベンの不祥事（創 35：22）
    - ③ 11番目の最愛の息子ヨセフ 17歳を他の兄弟たちが妬み、奴隷に売り飛ばした事件。ヤコブには、「ヨセフは野獣に殺されたらしい」と報告され、ヤコブはヨセフが死んだものと思い込んだ。ヤコブ 107 歳。
4. ヨセフはエジプトの高官の家で奴隷として働いたが、後にエジプトの王に次ぐ地位に就いた。ヤコブと彼の家族は、飢饉に見舞われ、ヨセフを頼ってエジプトに避難した。エジプトに到着したとき、ヤコブは130歳、次のようにエジプトの王ファラオに語った。「私がたどってきた年月は130年です。私が生きてきた年月はわずかで、**いろいろなわざわいがあり**、私の先祖がたどった日々、生きた年月には及びません。」その後、ヤコブはエジプトで17年間過ごし、147歳で死んだ。「信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝した」（ヘブル 11：21）

□本日の内容：ヤコブは、母リベカの実家に向かった

1. ヤコブは、パダン・アラム（アラムの平野）の地のハランへ向かった（創 28：5）
  - (1) ハランは、アブラハムの生まれ故郷の町
  - (2) リベカの実家があった。リベカは、アブラハムとは親族関係の家の出身
  - (3) 実家の当主は、リベカの兄ラバン
2. この旅の途中で、ヤコブが野宿していると、神が夢の中に現われた（創 28：10～22）
  - (1) 10～11 節 ヤコブはベエル・シェバを出て、ハランへと向かった。彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすことにした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。
  - (2) 12 節 すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地の上に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。
  - (3) 13～14 節 そして、見よ、主がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。
    - ① わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。
    - ② あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、
    - ③ 地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。
  - (4) 15 節 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」
  - (5) 16～17 節 ヤコブは眠りから覚めて、言った。「まことに主はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」彼は恐れて言った。「この場所は、なんと恐れ多いところだろう。ここは神の家にはかならない。ここは天の門だ。」
  - (6) 18～19 節 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを立てて石の柱とし、柱の頭に油を注いだ。そしてその場所をベテル（神の家）と呼んだ。その町の名は、もともとはルズであった。
  - (7) 20～22 節 ヤコブは誓願を立てた。「神が私とともにおられて、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、無事に父の家に帰らせてくださるなら、主は私の神となり、石の柱として立てたこの石は神の家となります。私は、すべてあなたが私に下さる物の十分の一を必ずあなたに献げます。」

アブラハム契約をヤコブが継承したことを、神は再確認してくださいました  
この契約の3番目、祝福の約束に、今、私たちはあずかっています  
神の家ベテルは、今、どこでしょうか？